

# 曖昧性と美：俳句の美的評価の日独文化比較

## Ambiguity and Beauty: Japan–Germany Cross Cultural Comparison on Aesthetic Evaluation of Haiku Poetry

檀割 仁平<sup>†</sup>, 野村 理朗<sup>†</sup>  
Jimpei Hitsuware, Michio Nomura

<sup>†</sup>京都大学  
Kyoto University  
hitsuware.jimpei@gmail.com

### 概要

Ambiguity was divided into semantic and affective ambiguity, and their effects on the aesthetic evaluation of haiku were examined for Japanese and German speakers. 450 Japanese and 373 German speakers were analyzed. The online experiment consisted of two parts: one part for evaluating haiku and the other for answering questions on personality traits. The results showed that as semantic ambiguity increased, the aesthetic evaluation of haiku decreased. As a measure of affective ambiguity, we focused on awe and nostalgia, which encompass both positive and negative emotions, and the more they felt these emotions, the higher the aesthetic evaluation. These tendencies were greater for German speakers than Japanese. The reasons for the effects of two kinds of ambiguity on aesthetic evaluation of haiku and the cultural differences will be discussed.

キーワード：俳句, 芸術, 審美性, 曖昧性, 文化比較

### 1. はじめに

世界最短の詩といわれる俳句 (木山, 2020) の美しさは, 「不言の美」とも称され, 余計なことは書かない, 言わないところが俳句の特徴である (新田, 2013). つまり, 俳句は曖昧性を多く孕んだ芸術であるといえる. 曖昧性は芸術鑑賞の心理学研究においても重要なトピックであり, その多くは, 絵画や画像を用いて研究が進められている (Muth et al., 2015). 一方で, 俳句を含む詩を題材にした研究は限られているが, 俳句に関する2種類の曖昧性, すなわち意味の曖昧性 (新田, 2016), 感情の曖昧性 (岸本, 2008) についての言及を参考に, 本研究では, 曖昧性が俳句の美的評価にどのように影響を与えるかを検討する.

意味の曖昧性は, 芸術の評価において重要な要因となるが, その影響の方向性については結果が一貫

していない, つまり, 曖昧性が芸術の評価を高める時もあれば, 低める時もある (Muth et al., 2015). また, 曖昧性耐性—曖昧性を受容し, 楽しむ力—の個人特性も芸術の嗜好を予測することが知られている (Swami et al., 2010). 曖昧性耐性の文化差 (Hitsuware & Nomura, 2021a) に加え, 東洋の高文脈社会と西洋の低文脈社会—高文脈社会では, 言外の情報も重視される一方, 低文脈社会では, 語られたことそのものに信頼を置く—を考慮すると (Hall, 1976 岩田訳 1979), 日本語話者の方が曖昧な俳句においても, 意味を察し, より高い評価に繋がることが予想される.

一方, 俳句を含む芸術鑑賞の時, 曖昧なものは意味だけでなく, 鑑賞者の感情も非常に曖昧なものとなる, つまり, ポジティブともネガティブともいえない感情が芸術の美的評価に影響を与えることがある (Menninghaus et al., 2017). ここでは, ポジティブ・ネガティブの感情価が同居しうる2つの高次感情である畏敬の念 (Ehrfurcht in German) とノスタルジア (Nostalgia in German) に注目するが, それらの感じ方の個人特性も芸術の評価に影響しうる (Hitsuware & Nomura, 2021b). 具体的には, 畏敬の念・ノスタルジアを感じやすい個人程, 俳句の美を高く評価する. 俳句を鑑賞した時に実際に喚起される, つまり, 状態レベルの畏敬の念, ノスタルジアが俳句の美的評価に与える影響は未だ未検討だが, 先行研究を考慮すると, 畏敬の念やノスタルジアを感じれば感じる程, 俳句の美的評価は高くなると予想される.

以上より, 2種類の曖昧性に焦点を当てながら, 定型が17シラブルと極端に短く, 曖昧性を常に包含しうる芸術である俳句の美的鑑賞中の心理状態と関連する個人特性について検討する. さらに, 本研究では, 俳句発祥の地である日本と西洋文化の中でもドイツ語俳句が広く知られているドイツ語圏の参加者を対象にした.

## 2. 方法

本研究は、京都大学大学院教育学研究科倫理審査委員会の承認を得た（受理番号 CPE-353）。なお、本研究の実験パラダイムは先行研究（Hitsuwari & Nomura, 2021b）に準拠している。

### 2.1. 参加者

日本語話者 450 名（女性 293 名、男性 155 名、その他 2 名、 $M_{age}=39.52, SD=11.15$ ）、ドイツ語話者 373 名（女性 150 名、男性 220 名、その他 3 名、 $M=28.67, SD=9.17$ ）がそれぞれ Crowdworks (<https://crowdworks.jp/>) , Prolific (<https://www.prolific.co/>) で集められた。ドイツ語話者は、ドイツ人 243 名、ポーランド人 68 名、その他 62 名で構成されている。

### 2.2. 刺激

CLASSIC HAIKU (Lowenstein, 2007) に収録されている松尾芭蕉、与謝蕪村、小林一茶、正岡子規の俳句を準備した。本書にはドイツ語俳句も収録されており、日本語話者には日本語俳句を、ドイツ語話者にはドイツ語俳句を提示した。予備調査で、8 名が俳句の感情価評価を行い、よりネガティブな感情価を持つ俳句 61 句 ( $Range_{valence}=1.17\sim3.17$ ) を採用した。表 1 に今回使用したいくつかの日本語俳句とドイツ語俳句、参考として英語俳句を示す。

### 2.3. 手続き

実験もオンラインで行われ、大きく俳句の評価を行うパートと個人特性に回答するパートに分けられた。俳句の評価パートでは、俳句一句が画面に提示された 7 秒後に、参加者は、(1) 美、(2) 意味の曖昧性、(3) 畏敬の念、(4) ノスタルジア、(5) イメージの鮮明性、(6) 俳句内容の感情価、(7) 鑑賞者が抱いた感情価、(8) 理解度、(9) 感動、(10) わびさびの 10 の項目に 100 件法の VAS 評定を行った。本研究では、(1)~(4) の得点について検討した。その評定をランダムに提示される 23 の俳句に対して繰り返した。最初に提示された 4 句を最後に再評価させることにより、評価の信頼性を確認した。その結果、美 ( $r=.60$ )、意味の曖昧性 ( $r=.56$ )、畏敬の念 ( $r=.56$ )、ノスタルジア ( $r=.57$ ) の 4 項目は中程度の再検査信頼性を有していることが明らかになった。

個人特性に回答するパートでは、曖昧性耐性（今川, 1981）、特性畏敬（Shiota et al., 2006; Nomura et al., in press）、特性ノスタルジア（楠見, 2014; Routledge et al., 2008）の尺度を含む質問紙に回答した。

どちらのパートも Qualtrics (<https://www.qualtrics.com/>) を用いて実験が作成された。

## 3. 結果と考察

### 3.1. 意味の曖昧性と俳句の美的評価

俳句の美的評価を従属変数に、意味の曖昧性と文化、それらの交互作用を独立変数に投入して階層線形モデルで分析を行った。その結果、意味の曖昧性 ( $b=-.23, SE=.01, t=-38.67, p<.01$ )、意味の曖昧性と文化の交互作用 ( $b=-.08, SE=.01, t=-7.01, p<.01$ ) が有意であった（表 2; 図 1）。また、曖昧性耐性にも文化差が見られ、日本語話者 ( $M=4.50, SD=.51$ ) の方が、ドイツ語話者 ( $M=4.41, SD=.59$ ) よりも曖昧性耐性が高いことが示された ( $t=2.28, p=.02, d=.16$ )。

結果より、意味の曖昧性が上がれば上がるほど、俳句の美的評価は下がったが、文化との交互作用がみられた。具体的には、日本語話者の方がその傾きが小さく、曖昧性を高く感じている時の美的評価がドイツ語話者よりも高かった。曖昧性が上がるほど俳句の評価が下がった結果は、俳句の曖昧性そのものが美しさに繋がるよりむしろ、曖昧性の解消が美しさに繋がることを示唆している。曖昧性それ自体よりもその解消が芸術の美的評価に重要であることは先行研究とも一致する（Muth & Carbon, 2013）。さらに、高文脈社会である日本の参加者が、少ない情報から対象を評価することができ、低文脈社会のドイツ語話者にとって、それがより難しいことも示唆している。それは、曖昧性耐性が、日本語話者の方がドイツ語話者より高かった今回の結果によって支持される。

### 3.2. 感情の曖昧性と俳句の美的評価

俳句の美的評価を従属変数に、畏敬の念と文化、それらの交互作用を独立変数に投入して階層線形モデルで分析を行った。その結果、畏敬の念 ( $b=.36, SE=.01, t=52.15, p<.01$ )、畏敬の念と文化の交互作用 ( $b=.06, SE=.01, t=4.60, p<.01$ ) が有意であった。

(図 2A). 同様にノスタルジアについても分析を行い、ノスタルジア ( $b = .38, SE = .01, t = 61.92, p < .01$ ) とノスタルジアと文化の交互作用 ( $b = .09, SE = .01, t = 7.64, p < .01$ ) が有意であった (図 2B).

感情の曖昧性については、畏敬の念とノスタルジアを感じれば感じるほど、俳句の美的評価が上がるという結果が両文化で一致したが、文化との交互作用が有意であり、ドイツ語話者の方が、その傾きが大きかった。つまり、ドイツ語話者の方が、それらの感情の喚起が俳句の美的評価に与える影響をより顕著に受ける。畏敬の念やノスタルジアが美的評価を予測するのは先行研究 (Hitsuwari & Nomura, 2021b) と一致するが、その効果に文化差を見出したのは本研究が初めてである。畏敬の念が、西洋人にとって、よりポジティブに捉えられ (Bai et al., 2017), ノスタルジアが、西洋人にとって、概ねポジティブな感情として捉えられている一方 (Wildschut et al., 2006), 日本人にとって、ネガティブな側面が強調されうること (長峯・外山, 2016) が今回の結果を説明しうる。つまり、西洋人にとって、畏敬の念、ノスタルジアという感情が美というポジティブな評価、感情とより密接に関連していることが考えられる。加えて、東洋人は感情の両価性を受け入れやすく、つまり、それらの感情を必ずしもポジティブと評価しないため (Nakayama et al., 2020), 西洋人程には俳句の美的評価を予測する感情因子にはならなかったのではないかと考えられる。

#### 4. 結論

曖昧性を意味の曖昧性、感情の曖昧性に分解し、それらが俳句の美的評価に与える影響を日本語話者とドイツ語話者を対象に検討した。その結果、意味の曖昧性が上がるほど、俳句の美的評価は下がったが、その傾向は日本語話者よりもドイツ語話者の方が大きく、その文化差は高低文脈社会によって説明されうる。感情の曖昧性を測る指標としてポジティブ・ネガティブの感情を包含する畏敬の念とノスタルジアの高次感情に注目した。それらの感情を感じれば感じる程、俳句の美的評価は上がったが、その傾向は日本語話者よりもドイツ語話者の方が大きく、その文化差は、畏敬の念やノスタルジアの持つポジティブ・ネガティブの感情価の割合に文化差があることによって説明されうる。「不言の美」と称される

俳句の特徴の 1 つである曖昧性は、美的評価の重要な予測因であると同時に、その関係には文化差があることが明らかになった。

#### 謝辞

本研究は、山岡記念財団研究助成「日独の若者文化・ライフスタイルの研究」を得て、計画・遂行されました。また、ドイツの研究者 Katharina Quaiser さんに研究材料の翻訳及びドイツ語圏でのデータ収集にご協力頂きました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

#### 文献

- [1] Bai, Y., Maruskin, L. A., Chen, S., Gordon, A. M., Stellar, J. E., McNeil, G. D., Peng, K., & Keltner, D. (2017). Awe, the diminished self, and collective engagement: Universals and cultural variations in the small self. *Journal of Personality and Social Psychology*, 113(2), 185–209. <https://doi.org/10.1037/pspa0000087>
- [2] Hall, E. (1976). *Beyond Culture*. New York: Doubleday. (ホール, E. 岩田 慶治 (監訳) (1979). 文化を超えて ティビーエス・ブリタニカ)
- [3] Hitsuwari, J. & Nomura, M. (2021a). Developing and Validating a Japanese Version of the Multidimensional Attitude toward Ambiguity Scale (MAAS). *Psychology*, 12, 477–497. <https://doi.org/10.4236/psych.2021.124030>
- [4] Hitsuwari, J., & Nomura, M. (2021b). How Individual States and Traits Predict Aesthetic Appreciation of Haiku Poetry. *Empirical Studies of the Arts*. Advance online publication. <https://doi.org/10.1177/0276237420986420>
- [5] 今川 民雄 (1981). Ambiguity Tolerance Scale の構成 (1): 項目分析と信頼性について 北海道教育大学紀要, 32(1), 79–93.
- [6] 岸本 尚毅 (2008). 俳句の力学 ウェブ
- [7] 木山 幸子 (2020). 俳句の心理言語学的一考察—定型詩を介した感情認知について—ことばと文字, 13, 35–43.
- [8] 楠見 孝 (2014). なつかしさ経験に及ぼす加齢の影響: ノスタルジアとの差異の検討と傾向尺度の作成 日本社会心理学会第 55 回大会発表論文集.
- [9] Lowenstein, T. (2007). *Classic Haiku: The Greatest Japanese Poetry from Basho, Buson, Issa, Shiki, and Their Followers (Eternal Moments)*. London: Duncan Baird Pub.
- [10] Menninghaus, W., Wagner, V., Hanich, J., Wassiliwizky, E., Jacobsen, T., & Koelsch, S. (2017). The Distancing-Embracing model of the enjoyment of negative emotions in art reception. *Behavioral and Brain Sciences*, 40. <https://doi.org/10.1017/S0140525X17000309>
- [11] Muth, C., & Carbon, C. C. (2013). The Aesthetic Aha: On the pleasure of having insights into Gestalt. *Acta Psychologica*, 144(1), 25–30. <https://doi.org/10.1016/j.actpsy.2013.05.001>
- [12] Muth, C., Hesslinger, V. M., & Carbon, C. C. (2015). The appeal of challenge in the perception of art: How ambiguity, solvability of ambiguity, and the opportunity for insight affect appreciation. *Psychology of Aesthetics, Creativity, and the Arts*, 9(3), 206–216. <https://doi.org/10.1037/a0038814>
- [13] 長峯 聖人・外山 美樹 (2016). 日本人はノスタルジアを経験しうるか? 感情心理学研究, 24(1), 22–32.

[https://doi.org/10.4092/jsre.24.1\\_22](https://doi.org/10.4092/jsre.24.1_22)  
[14] 新田 義彦 (2013). 不言の美文について: 俳句における省略の機序 (思考と言語) 電子情報通信学会技術研究報告, 112, 73-78.  
[15] 新田 義彦 (2016). 物語性について 経済集志, 85(4), 167-175.  
[16] Nomura, M., Tsuda, A., & Rappleye, J. (in press). Defining awe in East Asia: cultural differences in describing the emotion and experience of awe. Chiao, J., Shu-Chen, L., Rebecca, S., & Robert, T. (Ed.), *Handbook of Cultural Neuroscience: Cultural Neuroscience and Health*, New York: Oxford University Press.  
[17] Nakayama, M., Nozaki, Y., Taylor, P. M., Keltner, D., & Uchida, Y. (2020). Individual and Cultural Differences in Predispositions to Feel Positive and Negative Aspects of Awe. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, 51(10), 771–793. <https://doi.org/10.1177/0022022120959821>  
[18] Routledge, C., Arndt, J., Sedikides, C., & Wildschut, T. (2008). A blast from the past: The terror management function of nostalgia. *Journal of Experimental Social Psychology*, 44(1), 132–140. <https://doi.org/10.1016/j.jesp.2006.11.001>  
[19] Shiota, M. N., Keltner, D., & John, O. P. (2006). Positive emotion dispositions differentially associated with Big Five personality and attachment style. *Journal of Positive Psychology*, 1(2), 61–71. <https://doi.org/10.1080/17439760500510833>  
[20] Swami, V., Stieger, S., Pietschnig, J., & Voracek, M. (2010). The disinterested play of thought: Individual differences and preference for surrealist motion pictures. *Personality and Individual Differences*, 48(7), 855–859. <https://doi.org/10.1016/j.paid.2010.02.013>  
[21] Wildschut, T., Sedikides, C., Arndt, J., & Routledge, C. (2006). Nostalgia: Content, triggers, functions. *Journal of Personality and Social Psychology*, 91(5), 975–993. <https://doi.org/10.1037/0022-3514.91.5.975>

表 1. 使用した日本語, ドイツ語俳句の例

| 日本語俳句                 | ドイツ語俳句                                                                      | 英語俳句                                                           |
|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| この道を<br>行く人なしに<br>秋の暮 | Dämmerung im Herbst<br>und die lange Straße<br>ist ganz verlassen.          | Autumn nightfall<br>and the long road<br>empty.                |
| 涼しさや<br>鐘を離るる<br>かねの声 | Im kühlen Morgen<br>löst sich von der Glocke der Klang<br>und entschwindet. | In the cool of morning<br>the bell's voice<br>leaves the bell. |

表 2. 意味の曖昧性と文化が俳句の美的評価に与える影響

| Random effects      |             |          |          |         |         |
|---------------------|-------------|----------|----------|---------|---------|
| Groups              | Name        | Variance | SD       |         |         |
| ID                  | (Intercept) | 94.74    | 9.73     |         |         |
| haikuID             | (Intercept) | 47.89    | 6.92     |         |         |
| Residual            |             | 393.62   | 19.84    |         |         |
| Number of obs       | 18929.00    |          |          |         |         |
| groups ID           | 823.00      |          |          |         |         |
| haiku ID            | 61.00       |          |          |         |         |
| Fixed effects       |             |          |          |         |         |
|                     | Estimate    | SE       | df       | t value | p value |
| (Intercept)         | 55.51       | .96      | 79.45    | 57.75   | < .01   |
| Ambiguity           | -.23        | .01      | 18120.00 | -38.67  | < .01   |
| Culture             | .52         | .74      | 821.90   | .70     | .49     |
| Ambiguity * Culture | -.08        | .01      | 18120.00 | -7.01   | < .01   |

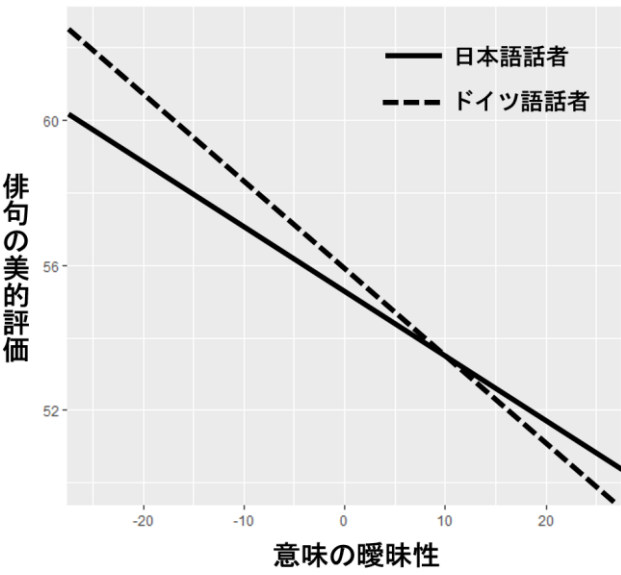


図 1. 意味の曖昧性と文化の交互作用が俳句の美的評価に与える影響

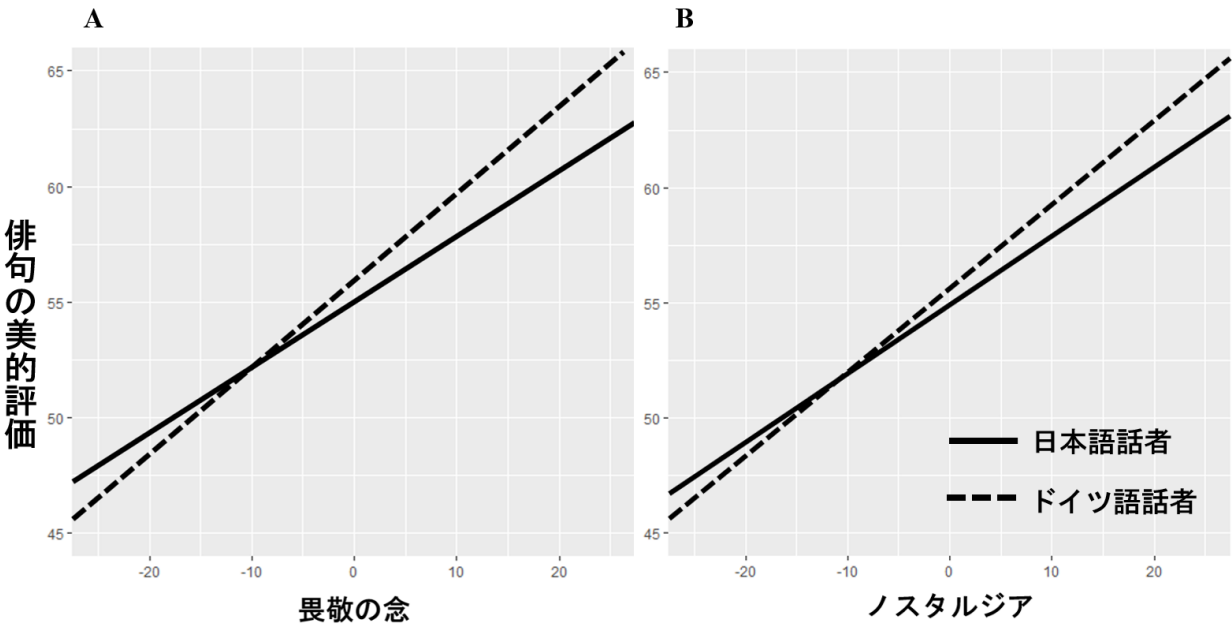


図 2. (A) 畏敬の念・(B) ノスタルジア と文化の交互作用が俳句の美的評価に与える影響